

③ 果樹

プロジェクト 世界に誇る「青森りんご」の次世代への継承

目標

・ 高密度植栽培の面積 R4：27ha → R10：150ha

挑戦する内容

- ・ 青森りんごの総合的な戦略の構築
- ・ りんご植栽150周年プロモーションの展開
- ・ **高密度植栽培の取組促進とりんごの結実確保**
- ・ スマート農業技術等の実証
- ・ 「青森りんご」の基幹となる品種の早期開発・育成

関係者の声
＝対話

- ・ りんご植栽150周年を好機と捉え、りんごをPRするイベントを実施し、情報を一元化することが必要（市町村、関係団体）
- ・ 高密度植栽培の取組が増加しているものの、専用苗木の供給不足が懸念。また、高密度植栽培を実習する機会や場所が必要（市町村、農協、生産者）
- ・ りんご栽培に適した機械の開発は遅れている（農協、生産者）
- ・ ふじを主体とした品種構成により、年明け以降の販売はふじがほとんどとなり、新たな品種を望む（市場関係者、生産者、消費者）

役割分担

- ・ 市町村、関係団体：総合戦略会議・150周年記念事業実行委員会への参画
- ・ 苗木業者、生産者、農協：専用苗木の養成、苗木増産に向けた協議会の設置
- ・ 産技センター：高密度植栽培の実習農場の運用、スマート農業機械等の実証、新品種開発、総合戦略会議・150周年記念事業実行委員会への参画
- ・ 生産者団体：新規就農者の定着支援、民間からの枝変わり品種等の収集
- ・ 県：協議会等の開催、苗木生産経費への支援

変革後の姿

- ・ 青森りんごの総合的な戦略に基づき、関係者が一丸となって戦略的な取組を行うことでりんご産業が持続的に発展
- ・ りんご植栽150周年を契機とした情報発信により、青森りんごへの関心が高まり、消費の拡大と新規就農者が増加
- ・ 高密度植栽培やスマート農業技術の普及、新品種の開発により、生産基盤が強化

令和7年度計画

挑戦する内容

- 1 青森りんごの総合的な戦略の構築
 - ・ 将来的なりんご産業振興の基本方針となる「青森りんご総合戦略」の策定
- 2 りんご植栽150周年プロモーションの展開
 - ・ 150周年記念事業実行委員会の活動支援
 - ・ アンバサダーによる情報発信活動、県内外でのPRイベント
 - ・ 記念式典の開催（令和7年9月）、タイアップ企画の展開、記念誌の発行
- 3 高密度植栽培の取組促進とりんごの結実確保
 - ・ 県育成台木「青台3」の高密度植栽培適応性の実証
 - ・ 補助事業による苗木養成と増産を支援し、供給力を拡大
 - ・ 高密度植栽培実習農場の運営、新規就農者へ栽培技術トレーナーによる技術指導
 - ・ 中南型高密度植栽培のモデル実証（中南農林水産事務所）
 - ・ 混植の啓発等による受粉環境の確保
 - ・ マメコバチの減少要因の解明（りんご研）と巣箱の適正管理の推進
 - ・ 人工受粉体制の強化に向けた花粉の確保及び貯蔵・供給体制の構築
- 4 スマート農業技術等の実証
 - ・ 収穫作業体系の省力化に向けた機械の開発実証
- 5 「青森りんご」の基幹となる品種の早期開発・育成
 - ・ 遺伝子解析（形質予測法）の継続実施と先進技術習得研修



キックオフイベントにおける
オープニングセレモニー



青森りんご植栽150周年
記念ロゴマーク

対話

- ・ 部会を開催し、事業の進捗状況を把握するとともに、意見を参考に事業構築（7月、1月）
- ・ 苗木業者等を対象に高密度植専用苗木増産に向けた意見交換を実施（年2回）
- ・ 新規就農者向けに高密度植栽培実習農場を運営し、意見交換（5～12月、年4回）